

## § 周産期を中心とした retrospective な調査

北里大学医学部小児科

仁志田博司

周産期のハイリスク因子と SIDS に関する retrospective および prospective の両面より調査を行っているが、今回は retrospective な調査結果を報告する。

**研究方法：**1978年より1981年までの4年間に北里大学病院で出生した5610例を対象として、表7に示す周産期のハイリスク因子が認められる1338例の家族へ、表10に示す文面による retrospective な調査を行った。

**結果：**転居先不明の228例を除く1110例中586例(52.8%)より回答が得られ、7名(1.2%)が、元気であった児が突然チアノーゼまたは無呼吸の状態で見えられ、救急に治療を受け死に至らなかった既往を有していた。いずれも入院加療および諸検査を受けており、その結果、2名は肺炎、1名は毛細気管支炎、1名は敗血症との診断が確立されたが、残りの3名はその原因が明らかでなく abortive SIDS の定義にあてはまると考えられた。1名は、その後全く同様な episode はなく、一時的になんらかの原因によって上気道閉鎖または狭窄が起ったものと考えられたが、他の2名は、同様な episode がくり返し認められている。その3名の既往および経過は文末に要約した。


また、同期間に出生した2名が、それまでの健康状態および既往歴から、その発生が予測出来ず突然死亡している。剖検により、1名は原因が不詳で SIDS と診断されたが、他の1名は気道内にミルクが認められた事等によりミルク誤飲による窒息と診断された。この2症例は、いずれも母体および新生児期にリスク因子となる既往はなく、その発生頻度は  $2/5610$  (0.036%、広義の SIDS) および  $1/5610$  (0.018%、狭義の SIDS) であった。

**考察：**回答のこないグループがよりハイリスクグループである可能性があり二次調査を予定している。今回は併行して行っている prospective Study の high-risk group の数を supplement する目的で行っているものであり、この study のみによる発生頻度は正しいものではない。abortive SIDS 3例ともに低出生体重児で、軽度ではあったがいずれも呼吸障害が認められ酸素投与も受けている。低出生体重児は313名であり、その abortive SIDS の発生頻度は0.96%と極めて高いものになり、さらに検討が必要であるが低出生体重児がハイリスクグループである事は間違いないようである。

SIDS の2例が、周産期のいわゆるハイリスク因子を全く含まない症例であった事は、本症の予測・予防の為の研究の困難さを示しており、より大きな集団での研究が必要となる。

表10-1

郵便往復はがき



40  
三平 郵便

返信

2 2 8 - □ □

神奈川 県 相模原市 北里 一丁目 十五番 一号

北里 大学 病院

小 児 科 外 来 行

(仁志田博司)

お父様・お母様方へ

前略

私共は、より良い明日の新生児、乳幼児医療のために、特に厚生省の依頼を受けて新生児の予後追跡調査を行っております。

御多忙中の事と思いますが、返信用はがきのいくつかの質問にお答えの後に御返送いただきますようお願い申し上げます。


なお、この調査において個人名が公表される事はありません事を付け加えさせていただきます。

北里大学医学部小児科講師  
仁志田博司  
北里大学病院 新生児室  
〃 小児科外来室  
〃 保健相談室

この封筒は郵便物として扱われず、差出人の責任で出していただくこととなります。

表10-2

郵便往復はがき



40  
三平 郵便

往信

□ □ □ - □ □

質 問

1. \_\_\_\_\_ ちゃんはお元気ですか？  
・ハイ  
・イエエ (どうなされましたか?)  
\_\_\_\_\_
2. 乳児健診は受けておりますか？  
・ハイ (3~4ヵ月・6~7ヵ月・12~13ヵ月・1才半・2才)  
・イエエ (その理由は?)  
\_\_\_\_\_
3. 最近の体格を知らせて下さい (測定月令 \_\_\_\_\_ ヵ月)  
体重 \_\_\_\_\_ g、身長 \_\_\_\_\_ cm、頭圍 \_\_\_\_\_ cm
4. これまで異常を指摘された事がありますか？  
・イエエ  
・ハイ (具体的に)  
\_\_\_\_\_
5. これまで急に顔色が悪くなったり、呼吸がおかしくなって救急で外来受診をした事がありますか？  
・イエエ  
・ハイ : \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日 \_\_\_\_\_ 時頃 \_\_\_\_\_ 病院  
症状 \_\_\_\_\_  
経過 \_\_\_\_\_
6. 母乳はいつまで飲ませましたか？ \_\_\_\_\_ ヵ月まで
7. 母乳を中止した理由は？ \_\_\_\_\_
8. 離乳食はいつ頃から始めましたか？ \_\_\_\_\_ ヵ月から
9. なぜ、北里大学病院でお産をなさいましたか？  
・特に理由はない ・知人がいる ・大学病院だから  
・近所から ・無痛分娩だから ・計画分娩だから  
・その他 \_\_\_\_\_
10. 北里大学新生児室への御意見  
・持たない ・親切であった ・不親切であった  
・その他 \_\_\_\_\_

ありがとうございました。

## abortive SIDS

**症例1** : M. F. (#38-23-51) 女児28週、988gmで出生。母親は28才、1経、母体および妊娠既往歴に異常なく、今回の妊娠経過も早期陣発まで順調であった。Spontaneous Vaginal delivery, cephalic presentation, Apgar Score 1分7点、5分9点、軽度のRDS所見であったが、酸素投与と数日のちに改善、以後、超未熟児であったが順調に発育、入院中、無呼吸発作は認められたが、退院後は消失していた。生後3ヵ月頃、自宅にて突然、無呼吸となり、母親の蘇生術を受け、来院して入院。入院中も何度か同様なepisodeを認められたが、得に治療を要せず、しだいに改善し、4ヶ月目に退院。入院中のEEG、その他の種々の検査に異常なく、現在、順調に発育している。

**症例2** : Y. T. (#38-23-61) 男児、37週、2,128gm 双胎第二児、母親は36才、3経、母体および妊娠既往歴に異常なかったが、今回は多胎および中毒症を合併、fetal distress の為、帝王切開となった。Apgar Score 1分3点であり、SFD (第1児、3,000g) であった。初期に呼吸障害が認められ、酸素投与を受けたが比較的順調な経過であった。退院後も、少し、発育・発達第1児に比して、遅れ気味であったが、明らかな異常は認めていない。生後1才4ヶ月頃より、自宅にて頻回にわたり、特別な誘因なくチアノーゼ発作が認められた為、入院精査を行ったが脳波・肺機能・レントゲン・心超音波等の検査いずれも正常であった。その後、同様なepisodeが何度か続いたが、次第に消失、現在順調に発育している。

**症例3** : Y. R. (#30-69-26) 男児:33週、2,171gmで出生。母親は33才、1経、母体および妊娠既往歴に異常なく、今回はplacenta previa の為、C-Sとなる。Apgar 1分8点で、軽度のRDS所見が認められ、酸素投与を7日間受けたが以後順調な経過で退院した。生後48日目、自宅にて突然チアノーゼ発作を起し、救急を受診、入院精査を受けたが、入院後、同様な発作は認められず、また種々の諸検査も正常範囲であった。以後、順調に発育しており、一時的な上気道狭窄が最も疑われた。

## SIDS

**症例1** : A. N. 男児、39週、2743gmで出生。母親は29才、2経、母体の既往歴、妊娠既往歴に異常なく、今回の妊娠経過も順調であった。自然、経膈、頭位分娩でApgar Score 1分、10点で新生児期の経過にも異常は認められなかった。生後6ヶ月目、日中、睡眠中、呼吸停止している事に母親が気づき、すぐ近医を受診、さらに当院救急を受診したがすでに死亡していた。剖検にても死因となる原因は認められず、SIDSと診断された。

**症例2** : I. B. 男児、39週、2733gmで出生。母親は25才、初産、母体の既往歴に異常はなく、予定誘導・経膈・頭位分娩でApgar Score 1分9点であった。入院中の往診に異常なく、生後5日目に正常新生児として退院。生後19日目、夜間、突然、呼吸停止し、救急で当院受診したが、すでに死亡しており、剖検では気道内にミルクが多量に認められた事よりミルク誤飲と診断された。



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



周産期のハイリスク因子とSIDSに関する retrospective および prospective の両面より調査を行っているが、今回は retrospective な調査結果を報告する。

研究方法:1978年より1981年までの4年間に北里大学病院で出生した5610例を対象として、表7に示す周産期のハイリスク因子が認められる1338例の家族へ、表10に示す文面による retrospective な調査を行った。